

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|--|
| 事業所番号 | 2072700723 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人協立福祉会 | | |
| 事業所名 | 高齢者グループホームなのはな | | |
| 所在地 | 長野県東筑摩郡山形村2526番地1 (電話) 0263-73-0788 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人アイネットSAKUMA | | |
| 所在地 | 長野県松本市大字芳川小屋508番地3 | | |
| 訪問調査日 | | 評価確定日 | |

【情報提供票より】 (平成20年12月26日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|--------------|---------|
| 開設年月日 | 平成 17年4月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤1人, 非常勤1人, | 常勤換算 7人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|---|------|
| 建物構造 | 木 造り | | |
| | 1階建ての | ~ | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|---------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 35,000 円 | その他の経費(月額) | 2,000~ 円 |
| 敷 金 | 有 (円) | ○ 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) ○ 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 850 円 |

(4) 利用者の概要(12月26日現在)

| | | | | | | |
|-------|----|------|----|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 2名 | 女性 | 7名 | |
| 要介護1 | 1名 | 要介護2 | 6名 | | | |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 0名 | | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 0名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 82歳 | 最低 | 63歳 | 最高 | 91歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------|
| 協力医療機関名 | 山形協立診療所 |
|---------|---------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

なのはなのある山形村は松本市のベッタタウンとして発展し、若い世代が多い地域であり、高齢化率も周囲の地域より低い地域でもあります。近くに大型の複合商業施設があり、買い物・映画・カルチャセンターなどがあります。周囲の自然も豊で隣には畑があり季節を感じることも出来ます。同一敷地内に協立山形診療所・デイケア・訪問看護ステーションがあり医療と福祉の連携が取り易い環境の基にある。食堂から訪問者がよく見え、伺ったときにも利用者みなさんが出向かえてくださいました。建物内部全体に柔らかい光が入り清潔感が感じられました。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | <p>前回の評価日は平成17年12月である。前回の評価を踏まえ、記録の取り方、介護計画のまとめ方などより判り易い方法をと、思案・試作中であり、職員全体のいきごみが感じられた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所において出来る事、出来ていない事をしっかり把握している。その上に立ち、出来ていない部分のどこが足りないかを見極めようとする姿勢がうかがえた。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議が定期的に行われており、毎年区長が代わる毎に説明され、地域の理解を得て行こうとする意欲が見られる。今まで地域との交流が中々出来なかったが、地域の認知症介護教室へ参加を希望される等、自ら行動取られる事を望まれている。これからの取り組みに意欲的な面を感じた。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からは高い評価が得られている。家族の来訪時での対応の仕方、利用者の日頃の様子、金銭に係る事、職員の異動等詳細に知らせている。家族の意見・要望については、話しやすい・言い安い関係作りに心がけており、それらを運営に反映するようにしている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣には、散歩の際に積極的に声がけする事により、ご近所関係を少しずつ築きつつある。時には野菜を頂く事もあると言う。一歩ずつ関係づくりを進めている。</p> |

2. 調査報告書

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 基本理念の①安心して暮らせる生活②笑顔のある生活③役割りのある生活（あなたの出番です）④関係作りのある生活⑤個性豊かな生活を掲げ、サービスを提供している。 | ○ | 事業所の理念は来訪者等に解かる様見やすい場所に提示・パンフレット等にも掲載し、職員も含め多くの方にとって貰う為の取り組みを望みます。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 月1回は部会を行っている。気になる事項などはミニ部会を開催し、理念に沿った支援が出来る様に努力されている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の付き合いについては散歩中の折などに畑の持ち主などへの声かけなどする事で、少しずつ構築中である。村内在住のボランティアの方がハーモニカ演奏に訪れる事もある。 | ○ | 現在の交流を広げながら、事業所が孤立する事が無い様努力して行く事を望みます。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価をする事により色々な気づきを持ち取組まれている。 | ○ | 前回改善を望まれた記録の仕方、介護計画のまとめ方など判りやすくする為に職員全体で検討しながら進めているが、更に努力して頂く事を望みます。 |

高齢者グループホームなのはな

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を活かした取り組み。運営会議での意見が支援に反映できる様、実行に移されている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 村の認知症介護教室に参加するなど、地域への行き来に努力されている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族からは高い評価を得ています。来訪時に信頼性を構築する為に配慮されて、信頼が得られている。今後もこの姿勢を維持して下さい。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を前回の評価で進められ設置をされているが、成果が無い。出来る限り家族の対面時には、意見・不満など聞く事に努めている。言い易い関係・姿勢を見せる様にしている。 | ○ | 運営に反映するよう・今後の参考にするよう、家族からの意見・要望を記録に残す事を更に期待します。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者のダメージが少ないよう、異動して来た職員への詳細な説明を行っている。 | | |

高齢者グループホームなのはな

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内での研修は積極的に行われている。育成計画など運営側から提示され、個々の勤務など考慮しながら参加に努めている。 | ○ | 介護実践者研修など外部研修への参加が少ないようです。広い見識を得る事も重要と考えます。色々な考えの人々から学ぶ事も多いと思います。今後の積極的な参加を望みます。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同敷地内のデイケアとの交流はあるが、他の事業者とのネットワークなどの構築中です。今後地域の中での同業者と交流を持ちたいと考えている。 | ○ | 村内では厳しいかと思しますので、大きい括りでの同業者との交流に取り組みを期待します。 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 不安を感じる本人・ご家族に対しては「通所デイ」を取り入れている。2～3日通って貰い様子を見ながら対応を考えている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者の出来る力が発揮できるよう場面作りに努めている。地代を生きてきた方々から学び、支えあう関係作りを取組んでいる。 | | |

高齢者グループホームなのはな

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者と話をすることにより、希望・意向の把握に努めている。家族にも得た情報を伝え、利用者の思いを大切に方向性を考えている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 常に変化する利用者について家族と連携し、利用者がより快適な生活が出来る為の介護計画作りに努めている。 | ○ | 認知症ケアの視点と具体を学びながら、日常の情報集約シートなど活用し、新たに掴んだ情報など記録できるもの、認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式など取り組みをされる事を望みます。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は3ヶ月毎に変化が無くとも見直しを行っている。 | ○ | 介護計画が実践より遅れてしまう事があると言う。計画の記入方法など検討頂くことを望みます。マネジメントセンター方式など活用することも一つの方法と思います。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者が家族がこの地域を離れ、知人がいないなどの状況の中関係する人々と話し合いながら柔軟に対応できる様にしている。 | | |

高齢者グループホームなのはな

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 同一敷地内に診療所・訪問看護ステーションがあり、状況変化時など素早く相談対応がし易くなっている。利用者・家族の安心に繋がっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ターミナルについて話し合っている。本人・家族の希望・思いを受け止めて対応する事を職員と考えて話し合いを持っている。 | ○ | 医療が支えやすい環境である為終末期など医療が必要になった時グループホームから医療施設に移る事が多いかと思えます。今後必要に応じて本人・家族との話し合いを密に取りながら考えて対応と、職員への対応（特に精神的援助）を望みます。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 記録の折徘徊・問題行動と言う表記を避けるようにしている。対応については自尊心を傷つけない様留意している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の都合優先の決まりにならない様、利用者優先に努めている。全体で行うレクリエーションについても無理強いせず、参加の意思を優先し希望を聞いている。 | | |

高齢者グループホームなのはな

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事を楽しんで貰う為に「何が食べたいですか？」と毎回声がけする様に心掛けている。一人ひとりの出来る事を發揮してもらい、準備・お茶入れ・片付け・洗いなどお願いしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 1日の入浴人数は決めてあるが、前日に続けて入りたい場合は入って貰っている。無理強いはせず、一人ひとりの声がけで入っていただくようにしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 野菜切・片付け・食器洗い・居室のゴミ集めなど出来る事を中心に行っている。他者への関わりとしてデイケアの味噌汁作りをするなど役割を決めて実践している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 週末にホームの生活用品を利用者と職員で買い物を実施している。W/1回の頻度で近くをドライブ行い、散歩は天候など状況を見ながら40分位かけて歩いている。一部の方は敷地内をゆっくりと往復などされていた。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵を掛けない開放されたなのはなの生活を実践している。夜間は安全の為玄関等錠している。 | | |

高齢者グループホームなのはな

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 運営推進会議の中でも話し合っているが、未構築である。区でもまだ整っていない現状である。 | ○ | 地域に溶け込むきっかけとして村・区など地域の方と一緒に災害対策を構築して行く事を望みます。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の様子を見ながら、職員と話し合い状況を確認しながら支援されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 中庭を活用されている。めずらしい観葉植物が鉢植えて置かれて「ほっと」する空間がある。共有空間は採光・臭いもなく快適な場所となっている。皆さん食堂に各人思い思いの場所で寛がれていた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の好みを取り入れながら、居室整理、清潔の保持など、さりげなく職員が支援している。家族にお願いする場合もある。 | | |

※ は、重点項目。